

菅 秀和（広島県尾道市）

- 営業活動を兼ねたブランディングの手段として小売り店や飲食店にワークショップやセミナー企画を提案。
- コロナ禍を踏まえ、ネット型農業学校の講師を受け、就農希望者へ自身の経験を通して、考え方や方法論を伝える。
- 規模拡大時のインシャルコストの問題を解消するために、レモンを使った商品開発や業態開発を飲食店や外食企業に提案。
- 微生物資材を多用した土作り等に取り組む。



観光複合施設でマルシェ企画提案

阿知須まち開発株式会社（山口県山口市）

- 地産地消パンの開発プロジェクトを企画。山口県オリジナル野菜を使用した、「はなっこりーの花パン」をはなっこりー生産者・養蜂家・パン職人・道の駅駅長の女性4人が中心となり開発した。
- 東京からリターンした若手女性和菓子職人と連携し、道の駅オリジナルの阿知須饅頭を共同開発。
- 地域の加工者や生産者の交流支援を実施。



開発した「はなっこりーの花パン」

萩酒米みがき協同組合（山口県萩市）

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。



酒米生産から醸造まで
「オール萩阿武」ブランドのお酒

農事組合法人 ウエスト・いかち（山口県柳井市）

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。



女性部による農産物の加工・販売

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。



棚田アイス

塩飽部隊（香川県丸亀市）

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の実地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集合し、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人 You-Tuber による手島の動画配信中。



島民と京大生による竹林伐採

松山東雲短期大学しののめベジガール（愛媛県松山市）

- 愛媛県産品を使用した朝食レシピの考案。カゴメ(株)と連携した野菜スムージー・野菜スープを考案。また、野菜を使用したベジスイーツを開発。
- マルシェ等に出店し、野菜スープやベジスイーツの販売を通して食育に取り組む。
- 小学生の親子を対象に、大豆の播種から収穫の農業体験と、収穫した枝豆を使用したオリジナルレシピの調理を実施。



カゴメ(株)イベントで野菜・朝食摂取PR

愛媛県立丹原高等学校園芸科学科 GAP 班（愛媛県西条市）

- GAP 認証の取得に取り組み、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP 認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。
- GAP 認証取得による取引拡大と当校の PR のため、台湾への輸出に取り組み、生徒 20 名による台湾でのプロモーション販売を行った。



GAP 審査(現地調査)

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（愛媛県伊予市）

- びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。
- 農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。
- 他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。



子供食堂への参加
—地元農家との連携—


沢渡茶生産組合（高知県仁淀川町）

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が（株）ピバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。



お茶摘み体験ツアー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定) 応募団体 一覧 (鳥取県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		ビジネス	米子市	株式会社シルクファーム	農林漁業、 農村文化体験	雇用	その他 (耕作放棄地の再生)
②		コミュニティ	倉吉市	小鴨地区振興協議会	伝統の継承	—	—
③		ビジネス	湯梨浜町	株式会社 センコースクールファーム鳥取	農林漁業、 農村文化体験	食育・教育	地域貢献 (特産品振興)

応募団体位置図（鳥取県）



1

よなご
鳥取県米子市農林漁業、農
村文化体験

雇用

その他(耕作放
棄地の再生)

株式会社シルクファーム

～1年中楽しめるいちごの観光農園を！～



若手リーダーを中心にいちご苗を育成



真っ赤に熟した自慢のいちご

経緯

- 「人の流れ」を生み出す農業を目指し、活動を行う。
- 生産部門の富ますシルクファームと日南シルクファームを合併し、令和2年、株式会社シルクファームを設立。耕作放棄地の再生と周辺地域の活性化、雇用拡大を目指し活動開始。

取組内容

- いちご狩りができる観光農園として中海フルーツパークを平成30年に、ステラベリーパーク日南を令和元年に開設。ステラベリーパーク日南では、県とタイアップし星空観察を行う取組を実施。
- 耕作放棄地の25haを活用し、いちごやさつまいもを中心に栽培を行う。
- 若者、障害者、高齢者の雇用にも積極的に取り組む。

活動の効果

- 県内外の観光客やインバウンドを取り込み、県西部地域の観光地をつなぐ新しい体験農園型の観光施設として地域の活性化に繋がっている。
- 中海フルーツパークの9棟のハウスには、いちご狩りを楽しむため、年間約2,500人の来園者がある。
- 富ますシルクファームで農業参入以降、5名からスタートした農業部門も障害者を含む幅広い年代等の雇用に積極的に取り組んだ結果、5年間で30名の雇用を創出。

応募団体からのアピール・メッセージ

境港市、米子市から、中山間地の日野郡日南町までの「人の流れ」を生み出し、地域農業の活性化・観光産業の発展・雇用創出に貢献することを目指しています。

米子市米原8-1-32 Tel: 0859-30-4138

おがも

小鴨地区振興協議会

～稲作革命「太一車(たいちぐるま):中耕除草器」の顕彰活動～



小鴨公民館に「太一車」常設展示場設置



中井太一郎歴史講座(鳥取市民大学講座)

経緯

- 倉吉市小鴨地区は、明治期に活躍した近代稲作の礎といわれ、「太一車(中耕除草機)」の発明者、中井太一郎氏の生誕の地である。
- 当地区協議会では、中井太一郎氏の顕彰活動拡大のため「太一車研究委員会」を発足し活動。

取組内容

- 太一車についての創作絵本作りや小学校での歴史教育を実施。
- 市民大学講座における歴史講座の実施や、顕彰パンフレットの作成・配布を行い、周知活動に取り組む。
- 小鴨公民館内に「太一車」の常設展示場を設置。
- 「創作:ペープサート劇」を製作し、公演を実施。

活動の効果

- 中井太一郎氏の顕彰活動をまとめた書籍『太一車～近代稲作の父・中井太一郎～』を制作・出版。
- 顕彰活動において、「歴史」「稲作」「地域おこし」の3つの項目で活動を深掘りすることができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

講演や広報活動の継続、さらに、書籍『太一車』の販売を通じ、全国の農業関係者を含めた幅広い層の方々に、明治の歴史、農業、地域活性化をPRしていきたい。



株式会社 センコースクールファーム鳥取

～湯梨浜町特産「東郷二十世紀梨」オーナー制度の仕組み～



梨オーナーの収穫体験①



梨オーナーの収穫体験②

経緯

- 湯梨浜町は鳥取県の二十世紀梨の最大の産地であり、「東郷二十世紀梨」はブランド化されているが、高齢化、後継者不足により廃業農家が増加。
- 地域活性化が急務と考え、耕作放棄地となった梨畑を借り、地元企業、新規就農者とともに地域連携プロジェクトを立ち上げ梨栽培とオーナー制度に取り組む。

取組内容

- 梨の木のオーナーを当初は社員を対象に募集していたが、令和元年から一般募集も開始。
- 梨園の管理はプロジェクトが行い、オーナーには生育状況をネットで配信。
- 収穫時期には収穫体験をしてもらい、収穫した梨は自宅に届け、賞味してもらう。
- 希望に応じて青果から梨ジュースや梨ドレッシング等の加工品への交換も可能。

活動の効果

- オーナーの募集を平成29年の50口から今年度は200口に拡大し、売り上げを伸ばしている。
- 梨オーナーの増加により管理する梨畑は平成29年の7aから17aに増やしており、梨栽培面積の減少をくい止め、梨産地の再生に寄与している。
- 地元温泉の宿泊と梨収穫体験を組み合わせた「ふるさと納税の返礼品」に採用され、地域に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

湯梨浜町の課題である二十世紀梨産地の再生化を進める観点から栽培面積の拡大に努めていきます。